

# 章 英語活動の取り組み

## 1 外国語活動の新設と本校の英語活動

昨年3月に告示された小学校学習指導要領では、外国語活動が領域の一つとして新設された。社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化との共存や国際協力が求められるようになっていく今、ますます英語を中心とした外国語活動の必要性が増してくると考えられる。こうしたことから、今改訂での外国語活動の新設は、その重要性を国としても示したと捉えることができよう。

本校では平成15年度から文部科学省の研究開発指定を受け、英語学習を実施し、小・中の9年間を見通した英語カリキュラムを構築してきた。平成18年度からは、総合的な学習の時間の一環として英語活動に名称を変更し、実践を積み重ねてきた。

本章では、新設された外国語活動と本校が行ってきた英語活動にはどのような関連があるのか、さらに、どのような点に留意しつつ活動を展開していくか、という点について述べていきたい。

### (1) 目標レベルでの接点

今回の改訂で示された外国語活動の目標は、以下の通りである。

#### — 新学習指導要領外国語活動の目標 —

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

ここで大きな目標として示されているのが「コミュニケーション能力の素地を養う」ことである。そして、その目標に至るための要件として、「言語や文化の理解」「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成」「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」という3点が挙げられている。この3点について指導要領解説を読むと、以下のように解釈できる。

「言語や文化の理解」とは、外国語の基本的な仕組みや意味が分かり、その言語の背景にある文化について理解することである。これらはコミュニケーション活動を通して体験的に理解されていくことが望ましく、切り離して別々に指導されるものではない。

「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成」とは、日本語とは異なる外国語の「音」に触れさせることにより、外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとさせたり、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感させたりしながら、積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育てることである。その際、言語だけではなく非言語の表現方法も工夫する等、体験を通して様々なコミュニケーションの方法に触れさせることが大切である。

「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」とは、音声を中心としたコミュニケーション活動を通じて、外国語の基本的な表現に慣れ親しませることである。ここでも、コミュニケーション活動なくして慣れ親しませる等ということは不可能だと言えよう。

これらのことから、新設された外国語活動の上記の3つの要件全ては、コミュニケーション能力の素地を養うことに集約されていくことが分かる。

一方、本校では平成15年度より小・中の9年間を見据え、以下のように目標を設定してきた。

— 小・中9年間を見据えた英語活動の目標 —

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すこと等の実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

この目標は、現行の中学校学習指導要領「外国語」の目標に示されている内容に基づき、9年間を通して設定されたものである。小学校段階の6年間のみに絞って考えると以下のようになる。

— 本校英語活動の目標 —

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
高 学 年	英語によるコミュニケーションに関心を持ち、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。	簡単な英語や動作を用いて、表現したり答えたりすることができる。	簡単な英語を聞いたり文字や物と結び付けて読んで、相手の伝えたいことを理解することができる。	英語と日本語の使い方の違いや外国のくらしなどを体験的な活動を通して理解できる。
	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	
中 学 年	英語を使った活動に関心を持ち、自分から進んで参加しようとする。	簡単な英語や動作を用いてゲームをしたり答えたりすることができる。	簡単な英語を聞いたり物と結び付けて読んで、相手の伝えたいことを理解できる。	
	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現・理解の能力		
低 学 年	英語を用いる環境の中で、抵抗なく楽しもうとする。	英語の音に慣れ親しむとともに、簡単な英語を用いて、ゲームを楽しむことができる。		

【小学校6年間を通した目標】

学習指導要領で示された外国語活動の目標と、本校が設定した英語活動の目標とを改めて整理すると、どちらも「言語や文化の理解」「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成」「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」という3点から「コミュニケーション能力の素地を育成する」ことにせまろうとしている。このことから両者の方向性には、極めて近いものがあると捉えることができる。

(2) カリキュラムレベル・運用レベルでの接点

学習指導要領では、指導計画の作成と内容の取り扱いについて、以下の事項に配慮するように示されている(以下一部抜粋)。

- ・ 実態に応じて学年ごとの目標を適切に定め、目標の実現を図るようにすること。
- ・ 指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的なコミュニケーションになつたりしないようにすること。
- ・ 指導内容や活動については児童の興味・関心にあつたものとし、他教科で学習したこ

とを活用する等の工夫により、指導の効果を高めるようにすること。

- ・ 指導計画や授業の実施については、学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行い、授業に当たってはネイティブ・スピーカーや英語に堪能な人の協力を得ること。

外国語活動を通してコミュニケーション能力を育成するには、明確な目標を設定すること、外国語を用いてコミュニケーションを行う必然性をもたせた場を設定すること、児童に身近なものや教科と関連したものを題材として設定すること、ALT<sup>\*1</sup>、JTE<sup>\*2</sup>、HRTが協力して授業を実施すること等が大切であると示している。

この中で、「必然性をもたせる場を設定すること」という点について見ると、本校では以下の点を大切に、題材を決定・配列してきた。

- ・ 子どもの身近な生活場面を考慮した題材（第1・2学年「家族」、第3・4学年「昆虫」等）
- ・ 教科学習、季節や行事と関連した題材（第5・6学年「外国」、第3・4学年「季節」等）
- ・ 日本や外国の文化や行事に関する題材（第1・2学年「衣服」、第5・6学年「行事」等）

学年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1・2学年	家族	身体	数	色	空	動物	乗物	衣服	テレビ	料理	デザート
第3・4学年	店	買物	月日	時間	天気	昆虫	本	教科	家	まち	
第5・6学年	花	山	野菜	海	大地	木	食事	行事	旅行	外国	職業

【英語活動カリキュラム（各月の題材配列）】

生活に身近なものを取り上げた「家族」や、教科との関連を考慮した「外国」、日本や外国の文化に関する「行事」等の題材を設定し、発達段階や学校行事等を考慮してそれらの題材を配列している。このことは「指導内容や活動については児童の興味・関心にあったものとし、他教科で学習したことを活用すること」を踏まえたものである。

また、カリキュラムの実施にあたっては、ALT・JTE、HRTを組み合わせたT・Tの指導の体制で、下表のような役割を設定して授業を行っている。

教師	授業の中での役割
ALT	新しい教材についてネイティブな発音で、全て英語で指導する。
JTE	基本的に全て英語で指導を行うが、子どもの実態に合わせて柔軟に日本語での説明も加えていく。
HRT	子どもとALTのコミュニケーションの仲介、モデルになって活動する等の授業の雰囲気づくりを行う。

【ALT、JTE、HRTの役割】

本校では学習指導要領で示された「指導計画や授業の実施については、学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行い、授業にあたってはネイティブ・スピーカーや英語に堪能な人の協力を得ること」という事項を踏まえていると言えよう。

\*1：英語活動の補助をおこなう外国語指導助手（Assistant Language Teacher）の略。本校にはネイティブな発音ができる外国人の講師が1名在籍している。

\*2：英語活動の補助をおこなう日本人英語教師（Japanese Teacher of English）の略。本校には、児童英語の指導経験がある日本人の講師が1名在籍している。

## 2 本年度の重点

1で述べたように、目標レベルやカリキュラムレベル、また運用レベルにおいては、学習指導要領の目標や趣旨と、本校のこれまでの英語活動とは、極めて近いと言うことができよう。

しかしながら実践を進めていく中で、「学んだ会話表現を生かせるような場が不十分ではないか。」「場を設定したとしても、形式的なコミュニケーション活動になっていたのではないか。」と言った課題が出された。こうした課題が原因となり、子どもたちが自己表現したいという気持ちや、コミュニケーションを図ることへの意欲の低下につながっているのではないかと考えられる。やはり、明確な目的・相手意識をもたせるような、コミュニケーション活動の場を設定することが大切ではないだろうか。

そこで本年度は、子どもたちに、より一層のコミュニケーション能力の素地を養うため、以下のように重点を設定した。

目的・相手意識をもったコミュニケーション活動の在り方を探る
-------------------------------

そして、これらを実現するために、「授業におけるコミュニケーション活動の改善」「コミュニケーション活動を促す指導体制の充実」「コミュニケーション活動への興味・関心が喚起できる教材・教具の開発」という3点からアプローチすることとした。

### (1) 授業におけるコミュニケーション活動の改善

#### アクティビティ<sup>\*1</sup>の見直し

これまでのアクティビティを振り返ってみると、「マッチングゲーム」「選択ゲーム」等の覚えた単語を確認するゲームや、「ジェスチャーゲーム」「連想ゲーム」等の、会話やジェスチャーからある単語や品物を選ぶゲームが多く設定されていた。コミュニケーション能力を育成することを目的としながらも、子どもはそこで用いる単語を尋ね合うことに意識が向き、機械的に語句や文を暗記するといった活動になりがちであった。

そこで、学習した会話表現を活用して活動ができるよう、アクティビティに修正を加えるようにした。例えばゲームであれば、「決められた時間内にたくさんの人にインタビューするゲーム」というように、学習した会話表現を用いた内容を設定し、より明確な目的・相手意識をもって活動できるようにした。またショー・アンド・テル<sup>\*2</sup> (Show & Tell) やライティング (Writing) 等、学年が進むにつれ、全体の前で発表する場を設定したり、書く活動も取り入れたりすることとした。

なお、アクティビティの充実に向けて、用いる基本的な表現を定着させるためにも、歌やチャンツ<sup>\*3</sup> (Chants) に併せて基本の語彙を学習させたり、リズムを体感させたりする場を設定した。また、文字も子どもが発表したり、理解したりする際の支えとなるものとして取り扱うようにした。

\*1：学習した語彙やセンテンスを用いて行う、ゲームやロールプレイなどの活動。本校英語活動では、各単位時間の後半にその場を設定している。

\*2：何か物を見せながら英語で説明をする活動。

\*3：英語の音を楽しみながら「音感」を身につける方法の1つ。

## 会話表現等の見直し

アクティビティの見直しに伴い、そこで用いる会話表現や単語等の取り扱いも見直すようにした。まず、用いる会話表現を双方向のやりとりができるものに修正し、より相手意識をもったコミュニケーション活動の充実を図った。と同時に、単語量に関してもコミュニケーション活動の負担とならないよう、会話を成立させるのに必要な単語量に精選していくこととした。また、単元名に関しては、これまで本校が設定してきた月ごとの題材設定の趣旨や配列は生かしつつ、より、目的意識が感じられる名称に変更した。

下に示すものは6年生「Vegetable」のカリキュラム修正前と修正後である。

Theme	Vocabulary	Activity	
Vegetable	spinach, garlic green, pepper, bean cauliflower, turnip eggplant, carrot, tomato, cucumber, asparagus, celery, carrot, onion, cucumber, corn, potato, asparagus, cabbage	What vegetable do you like~? I like ~. Where is ~ from? It's from ~	<b>リスニングゲーム</b> ALTが野菜の原産国を英語で説明する。それを聞いて、野菜の絵と各国の国旗を線で結ぶ。 会話表現を用いないアクティビティを設定
【6年生 Vegetable (修正前)】			
修正			
オリジナルサラダを作る	lettuce, carrot, onion cucumber, corn, potato asparagus, cabbage	A: Do you like salad? B: Yes, I do. It's yummy. No, I don't. It's yucky. A: What's your favorite vegetable? B: I like ~. A: Do you like ~? B: Yes, I do. / No, I don't.	<b>オリジナルサラダを紹介しよう</b> 提示された野菜を選んでオリジナルサラダを作り、友達に紹介する。 学んだ会話文を用いながら相手意識をもって交流できる活動に変更
【6年生 オリジナルサラダを作ろう (修正後)】			

## 【カリキュラムの修正例】

このようにして修正したカリキュラムを実践し、課題が見えてくれば再度修正することで、本校英語活動カリキュラムの完成度を高めていくこととした。

## (2) コミュニケーション活動を促す指導体制の充実

子どもたちは、アクティビティを通して、より目的・相手意識をもったコミュニケーション活動を展開していかなければならない。そのためには、授業者が、目標やアクティビティの内容、ALT・JTEとHRTの役割、準備する教具等について共通理解を図り、指導を行うことが大切である。そこで、これまで用いていた単元を通しての指導案から、1時間ごとの指導案に変更

し、T・Tでの指導体制を充実させていくことにした。

まず、より効果的なアクティビティを実施するため、練習の進め方や、支援の在り方を明確にした。具体的には、中心となるアクティビティに至るまで、スモールステップでの練習の場を設定したり、活動の内容が理解できているかHRTが確認する場を設けたりした。そして、表現が定着していなかったり、理解できていなかったりする場合には、日本語による説明を加えるようにした。

次に、授業を通してコミュニケーションを図ることへの興味を高めるため、ALT・JTEとHRTの役割分担を明確にすることにした。具体的には、英語での発話に自信がもてるようにするために、ALT・JTEとHRTがデモンストレーションを見せたり、HRTが授業中に用いる英語での指示や賞賛の言葉(クラスルームイングリッシュ)を用いたりして、積極的に授業に参加できるようにした。

このように、指導体制を充実させることで、子どもたちが自己表現したいという気持ちや、コミュニケーションを図ることへの興味がわいてくるような授業づくりをめざすことにした。

### (3) コミュニケーション活動への興味・関心が喚起できる教材・教具の開発

コミュニケーションの場をより現実的なものに設定し、子どもの興味を喚起するためにも、教材・教具にも工夫を加えることとした。

教具においては、具体的な状況が引き出せるような物を作成した。例えば気象予報士として発表する場面では、テレビ画面を段ボールで作り、その他にも音楽をかけたり、国旗を準備したりと臨場感をもたせるよう工夫した。

また、授業で用いる写真も、できるだけ校内にある風景を利用することで、より身近に感じられるようにした。

教材においては、第5・6学年に「やさしい英語で自己紹介 This is Me! (学校図書)」を用いて実践するようにした。テキストを用いることで、自分のことを他者に伝えるために必要な語彙、コミュニケーションに欠かせない要素を学ばせることができるのではないかと考えた。

なお、テキストを利用するにあたっては、本校のカリキュラムに対応した部分のみ活用していくこととした。今後、あくまでも本校のカリキュラムを具現化していくための教材としての活用を考えている。

Procedure 進め方	Activities			
	Students	JTE / ALT	HRT	Classroom English
Greetings 5分	英語であいさつをする。 簡単な質問に答える。	Ask some questions for reviewing last year.	HRTも質問を してみる。	How are you doing? Let's start today's lesson.
Game time Game for fun 5分	ウォーミングアップ	Introduce new words, p10-11 CD 1 of バナナじまなくてbanana チャンプ	児童と一緒に歌う。	
Oral Practice Time Show & Tell 20分	定期表規でスピーチを行う。 Hi! My name is ~. I like jelly. I like cake. But my favorite snack is potato chips. Thank you. 全体→グループ→個でスピーチを発表する。	What's the title? What's the question? What's the answer? Introduce new words, p10-11.	This is Me! p.8-11 JTE / ALT は Speech のアキ キをする。 代表は隣のグ ループに移動 して発表する よう促す。	Please listen what JTE/ALT says. Watch and copy in. I like your smile. I like your gesture. I like your voice. You did a good job.

【1時間ごとの新しい指導案】



【工夫した教具を用いて発表】



【子どもが活用したテキスト】